

# 振動試験受託を拡大



神戸工業試験場の播磨事業所（兵庫県播磨町）内にエミックの兵庫受託試験センターを開設（左がエミックの高見社長、右が神戸工業試験場の鶴井社長）

**神戸工業試験場  
エミック**

## 試験センター新設

【神戸】神戸工業試験場（兵庫県播磨町、鶴井昌徹社長、079-4335・5010）とエミック（東京都品川区、高見哲夫社長、03-33494・1221）は、振動試験の受託業務を拡大する。神戸工業試験場の播磨事業所（兵庫県播磨町）内にエミックの兵庫受託試験センターを開設した。恒温恒湿槽を組み合わせた中型の振動試験機4台を新たに導入。重電関係の耐震試験や自動車の電装化などで増加傾向にある蓄電池の振動試験に対応できる体制を整えた。

建屋の建設費と設備投資を合わせた総投資額は2億5000万円。新設した試験棟は、延べ床面積約255平方メートルで平屋建て。今後、関西地区に拠点を構える自動車や航空宇宙業界のサプライヤーから、振動試験の受託業務の拡大を目指す。エミックは振動試験装置の製造販売や東日本を中心に受託試験事

業などを展開。2019年に日測エンジニアリング（埼玉県日高市）から振動・複合試験の受託試験事業を承継した。同年、大型の振動

試験機に特化した神戸受託試験センター（神戸市西区）を開設するなど、西日本での受託試験事業を強化してきた。20年6月期の売上高は44億円を見込む。神戸工業試験場は高温環境中など特殊な条件下での試験を得意とする。20年12月期の売上高は46億円を見込む。両社は独立系の民間工業試験受託企業で、18年に協業を開始。引き続き専門性が高く、幅広い振動試験をワンストップで受託する体制をより強固にする。